

あ か 牛



(草でふとる「あか牛」)

第
9
号

1962.1

社 団 日 本 褐 毛 和 牛 登 録 協 会
法 人

The Japanese Brown Cattle Society

謹賀新年

昭和二十七年元旦

法人団

日本褐毛和牛登録協会

会長 佐々木 清綱

副会長 河津 寅雄

副会長 小屋迫 一

常務理事 高野 守雄

ほか 役員一同

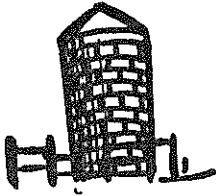
最近のあか牛（子牛）市況

月日	市場名	性別	頭数	最高	最低	平均
36年 11. 25	桜井	め	84	125,000	35,000	65.970
		お	112	66,000	20,200	41.014
26	米民	め	132	152,000	40,000	70.897
		お	164	98,000	31,000	45.713
27	山鹿	め	215	148,500	40,000	73.967
		お	193	112,100	32,100	48.043
28	水源	め	76	126,000	67,300	70.250
		お	88	68,000	30,300	46.122
12. 1	隈府	め	386	132,000	29,100	61.780
		お	390	76,800	27,000	43.011
2~5	水俣	め	43	127,000	35,000	70.916
		お	57	68,000	31,000	46.773
7	湯浦	め	45	103,000	36,000	65.404
		お	40	70,000	30,500	42.579
8	白水	め	150	150,000	30,000	57.617
		お	185	60,000	20,200	40.281
9	高森	め	228	115,100	31,000	57.224
		お	293	115,100	25,000	42.579
10	管尾	め	84	95,600	31,100	52.931
		お	64	65,500	30,000	40.651
11	波野	め	59	91,100	35,000	57.365
		お	91	59,000	30,000	43.638
12	宮地	め	63	81,500	30,100	54.001
		お	81	99,000	18,600	40.519
13	大津	め	120	140,000	33,000	53.287
		お	75	57,000	29,000	40.524
14	益城	め	23	80,000	30,000	45.578
		お	24	68,000	25,000	36.804



あ か 牛

No. 9



1962.1

目次

会報.....2

- 本会定款の一部を変更
- 総代選挙規程の一部を改正
- 西日本ブロック研究会
- 中央審査委員会
- 東日本ブロック研究会
- 審査標準改訂案でき上がる
- 佐藤常務理事急逝

肉牛見聞記.....前農林省 家畜改良課長 占野 靖年 9

第二回福岡県肉畜共進会の記.....九大助教授 古賀 一 郎 17

和牛と草をめぐって.....九州農試 畜産部 黒肥地 一 郎 25

アメリカ留学雑感.....九州農試 畜産部 真木 芳 助 33

佐藤さんを憶う.....群馬県 石橋 秀 40

ニュース.....42

会 報

○ 本会定款の一部を変更

本年度通常総会において、本会定款の一部を変更する議案が可決されたので、農林大臣に対し認可方を申請中であったが、七月二十一日付で認可の指令があつたので、左記のとおりその変更が発効した。

◎ 第三十二条第二項『総代会は別に定める規程に従い、各支部から正会員三〇〇名以上一、〇〇〇名までは一名、一、〇〇〇名を超える毎に一名を選出した総代をもつて組織し、総代の任期は二年とする。』とあるのを、『総代会は、別に定める規程に従い、正会員のうちから選出する総代をもつて組織する。総代の定員は四〇〇名とし、その任期は二年とする。』に変更する。

○ 総代選挙規程の一部を改正

定款の一部変更に伴い、総代選挙規程の一部を次のとおり改正した。

◎ 規程第二条『総代の定数は各支部における正会員

一、〇〇〇名に付一名とする。会員数三〇〇名未満の支部には総代を置かない。』とあるのを、

『総代は、三月三十一日現在の正会員数を基礎としてこれを東北、関東、甲信越、九州の各地域別に集計しこれに対して四〇名の定員を按分比例によつて割り当て、更にこれを地域内の各県支部正会員数に応じて按分し、選出する。』に改める。

○ 西日本ブロック研究会

新しい附点法の実施に伴い、審査眼の統一を図ることを目的として、八月二十八日、二十九日の両日、福岡県種畜場で西日本ブロック研究会を開催した。

当日は、福岡、長崎、熊本三県支部並びに県庁の主任者及び地元福岡県の農林事務所職員多数参集して、岡本中央審査委員長指導のもとに、審査の研究を行ない、つづいて審査標準の改訂を中心に意見を交換し、次回の当番県を熊本県とすることに決定して盛況裡に散会した。

○ 中央審査委員会

十月二十九日午前九時より、群馬県伊勢崎市で中央審査委員会を開催した。当日は、岡本中央審査委員長を始め、

大川、佐藤、島田、石川、林、桑原の各委員が出席して、左記事項について協議し、午後四時散会した。

1、審査標準改訂案の検討、

2、創立一〇周年記念行事としての褐毛和牛特別研究会の開催について、

3、ブロック研究会の運営について、

○ 東日本ブロック研究会

本年度の東日本ブロック研究会は、群馬県の当番により十月三十日午前九時より群馬県伊勢崎市佐波農業高校で開催した。

当日は、秋田、宮城、福島、茨城、埼玉、群馬、長野の各県より多数の関係者が参集して、岡本中央審査委員長指導のもとに、新附点法による模範審査を受講したのち、四班に分かれて、審査を実施、終つて中央審査委員側とデイスカッションを行なつて、審査眼の統一を図つた。

翌三十一日は、支部長・審査委員会議を開催、審査標準の改訂・創立一〇周年記念行事・機関誌・登録事務の諸問題について協議し、次回開催地を宮城県に決定して散会した。

○ 審査標準の改訂案でき上がる

新登録規程の施行に伴い、「審査標準を改正する場合には、同規程第一〇条により、先づ改正案を中央審査委員会で作製すること」に定められたので、岡本委員長を中心に各中央審査委員の間で検討を重ね、このほど左記の改訂案ができ上つた。

全国の関係者各位には、内容を充分御検討願ひ、遠慮なく意見を提出されたい。

褐毛和種審査標準（改訂案）

改良目標

一般的性能・性質温順、体質強健で、環境への適応性が強く、繁殖成績がよいこと。

産肉能力・早熟早肥で、飼料利用の効率がよく、肉量肉質ともすぐれていること。

役能力・力、歩み、および耐性において、実用に十分な能力を保持すること。

※標準体型
体格(大きさ)

雄	雌	区分	
		規 準	範 圍
一四〇—一三七—一四三	一二七—一二四—一三〇	cm	體 高
		cm	
七五〇—七〇〇—八〇〇	四八〇—四五〇—五一〇	kg	體 重
		kg	

各部の比率(つり合い)

雄	雌	区分
一〇〇	一〇〇	體高
九八	一〇〇	十字部高
一二三	一二八	體長
一五三	一四三	胸囲
五四	五三	胸深
三九	三七	胸幅
四一	四〇	尻長
三八	三九	腰角幅
三七	三七	寛幅
二五	二五	坐骨幅
一五、二	一三、二	管囲

※成熟した繁殖牛の標準で、若齡の牛には別に定める正常發育曲線の數値を適用する。

付点審査の規準

区分	説明	配点
<p>一般的外観 發育・状態 体積・均称 資質・品位 体色 頭・頸 頭・顔 頸</p>	<p>月齡相応の發育をしめし、体高と体重とが別に定める發育曲線によく適合すること(6)。 栄養良好で被毛に光沢があり、繁殖牛として適度の肉付をしめし、過肥でないこと(4)。 体幅、体深ともに十分で、体上線と体下線とがほぼ平行し、体幹が豊円で、頭、頸、肢などのつり合いもよく、各部の比率がなるべく標準に合致すること。 温和なうちにも活気があり、雌雄それぞれに特有の性相と品位を現わし、被毛は細くて柔軟、皮膚は薄く柔らかで、ゆとりと弾力のあるもの。角と蹄とはなめらかで質のち密なもの。 被毛は黄褐色から赤褐色までの単色を原則とするが、下腹部、下肢、後肢内面などはある程度淡くてもよい。皮膚は淡紅色、角と蹄とは被毛に似た褐色を標準とする。</p> <p>頭は大きくなく、輪郭がはつきりして、雌雄とも性相がよく現われ、額は平らで広く、上部はいく分しまり、鼻すじが通り、鼻鏡は広く、口が大きく、頸の丈夫なもの。目は大きくて生氣があり、しかも柔和さを失わないもの。角は丸く、長さ大きともに中くらいで、向きのよいもの。項はくぼみのあまり深くないもの。</p> <p>頸は長からずつまらず、頭と肩とのいずれにもなだらかに移行し、雌ではすつきりして、雄ではたくましく、いずれも垂皮の重くないもの。</p>	<p>二 四 六 ※ 一〇 二〇 一〇 四〇</p>

区分	説明	配点
前区 肩 前胸	<p>肩幅は胸幅とつり合い、き甲はとがらないで丸みがあり、肩甲は程よく傾斜して形よく附着し肩端の突出しないもの。</p> <p>前胸はよく充実し、広くて平らなもの。</p>	四 六
中区 胸・肋・腹	<p>胸郭は広さと深さとがよくつり合い、肩後肘後ともに充実し、豊円の感があるもの(4)。</p> <p>肋はよく開張し、肉付き良好で触感のなだらかなもの(4)。腹は豊かできぼみが少なく、下部までよく充実しているもの(2)。</p>	一〇 二〇
後区 背・腰 十字部・腰角 ・尻・寛尾	<p>上線はまつすぐで強く、上面は平らで幅広く、肉付き良好で、後区への移行のよいもの。</p> <p>十字部は平らで、腰角は突出せず、尻は広く長く、よく充実し、上線がまつすぐで、後方にも側方にもあまり傾斜せず、寛は幅が広く、その位置がよく、尾付きのよいもの。</p>	一〇 一六 八
殿・腿 乳房・性器	<p>殿はよく充実して坐骨端が突き出ず、腿は前後、内外、上下いずれの方向にも豊かな肉付きをしめすもの。</p> <p>乳房は四区均等に発達し、柔らかで弾力があり、乳頭は大きく配置のよいもの。睪丸は左右とも正常に発達し、陰囊にはいく分ゆとりがあり、包皮のゆるくないもの。</p>	八 四

肢蹄・歩様

肢は長くなく、関節は強く、管はしまり、つなぎもしまつて丈夫なもの。肢勢は正しく、左右の間が程よく離れ、飛節の角度は適当で、安定感があり、蹄は大きさ適度で厚く、形のよいもの。
肢の運びはまつすぐで軽く、踏着きがよくて、腰や飛節のゆれないもの。

八

※ とくに配点せず、別に定める内規により、〇―二点の範囲で総得点を補正する。

失 格 条 項

- 一、異毛色、顕著な白斑
- 二、性器の異常

取扱いはいずれも別に定める。



○ 佐藤常務理事急逝

本会常務理事佐藤正次氏は、前立腺肥大のため、十一月二十六日熊本県人吉市の手塚外科病院に入院、十二月二日前立腺摘出手術を受けられ、その後の経過は順調で十二月十日抜糸を完了し、近く自宅療養に移られる見通しであつたが、十二月十三日午前十一時突如容態が急変し、冠状動脈血栓による心臓麻痺で死去された。六十二才。

同氏は、文字通りその一生を「あか牛」の改良増殖に捧げられ、昭和三十一年以降は本会常務理事としてその職務を続行されるとともにとくに熊本県球磨地方の産牛の基礎を確立された功績はまことに多大であり、その死は各方面から惜しまれている。

ここに謹しんで哀悼の意を表する次第である。

肉牛見聞記

農學博士 占野靖年

(前農林省家畜改良課長)

一、はし が き

世界のおもな肉牛について、何か書いてもらいたいとの御依頼をうけたのであるが、とうていまとまつたことを書けそうにもないので、筆者が一九五二年および一九五三年にニュージーランドに行つた当時のことおよび一九六一年にアメリカに出かけたとき見聞したことを思いつくままにのべてみよう。

もちろん肉牛調査のためにおもむいたのではなく、たまに筆者が肉牛について見聞したこととふれてみたいと思うのである。したがつてどこまでも筆者の私見であることを御了承のうえ読んでいただければ有難いと思う。

日本の畜産も、独自の条件を持つているとはいへ、世界の畜産とのつながりは戦前とちがつてその必要性をもつようになつたから、世界とともに考え、世界とともにのびることが必要である。

二、ニュージーランドの肉牛

(一) 肉牛飼養の経営形態

ニュージーランドにおいては現在約二五〇万頭の肉牛が飼養され約二〇万トンの牛肉を生産している。その総頭数は日本と大体同じである。そして肉牛農場の数は約一、二〇〇農場であるから、一農場当たり約二、〇〇〇頭を飼養しており、一七〇万エーカーの草地を利用してゐる。

肉牛の経営形態には二種類あつて、その一つは肥育素牛の生産経営であり、他は肉牛の肥育経営である。

しかもニュージーランドの肉牛飼育の特徴は肉緬羊の飼育と密接不可分な関係にあることを忘れてはならない。すなわち緬羊放牧地において緬羊の食い残した草と羊齒類はこれを放置すると急激にふえて草生の維持改良上支障をきたすから、肉牛を放牧して羊齒類を踏みくだけ、また緬羊の食わない禾本科の長い牧草を肉牛に食わせるのである。このような放牧地の草生調整をパステリア・コントロールと称している。肉牛は肉緬羊との名コンビのもとに飼養され、この両者が共存共栄しているのである。

肥育素牛の生産経営は主として北島の丘陵地においておこなわれ、草地の火入れによつて出来た灰分の上にクローバーと禾本科牧草を表面に播種してできた草地において行われてゐる。

ニュージーランドでは肉牛のことをビーフ・キャトルの

ほかに、ステイション・キャトルまたはランド・キャトルとよんでおり、肥育の素牛のことをストア・キャトルといっている。緬羊の場合も同様に素緬羊をストア・シープとよんでいる。

肉牛の約六〇%以上が北島において飼養されており、その種類はアバディーン・アンガスがもつとも多く、ヘレフォードがこれにまじつて飼養されている。

生産された素牛は肥沃な地方の肉牛肥育経営地帯に供給される。この生産地帯は土地条件がよくないから肥育はやつていない。

最近では積極的に仔肉牛の生産を行ない、秋になると毎年定期的に集約草地の肥育経営者に仔牛を販売している。以前は肉牛は単に緬羊のための草生調整を主目的として付属物的存在であつたが、最近ではアメリカへの輸出が増加しており、素牛生産に力を入れている。

一般に緬羊一〇頭に対し肉牛一頭の割合で丘陵地帯の粗放経営農家によつて放牧が実施されている。

つぎにクローバーと禾本科牧草からなる永年牧草地が肥沃な人工施肥のなされた平地にあるが、ここでは乳牛飼養のほかには肉牛の肥育と緬羊の肥育が実施されている。

これまでは肥育経営で肉牛肥育を専門とする農家は少なかったが、最近では年々ようやくその数を増加してきてい

る。これまでのようにかたい牧草や羊齒類の掃除のために飼養されてきた素牛は、肥育地帯にきて肥育をしても、その肉質からみて一級のものには生産されなかつた。しかしながら生れた時から、ただちに良質牧草で十分飼養出来る農場で育つたものは、きわめてすぐれた肉質のものが生産されている。

従来肉牛肥育に適した草地で、主として乳牛飼養と緬羊肥育が実施されてきたのは、その方が肉牛肥育よりも利益が多くて採算がよかつたためである。それがひいてはニュージーランドの肉牛の声価を高めえなかつた主たる理由であつた。

一般に集約的な肉緬羊の肥育農家は一五頭の緬羊に対し一頭の肉牛を飼育している。しかし輸出によつてその真価が認められてから、急激に肉牛専門の農場から肉質一級の肉牛が生産されるようになってきた。すなわちすべては経済ベースとの関係である。

(二) 肉牛の種類

ニュージーランドの肉牛の種類はその六六%以上がアバディーン・アンガスであつて、これを四〇年前と比較すると十五倍以上になつており、他の種類にみない増加率である。このことは早熟なアバディーン・アンガスがいかにニュージーランドに好適した種類であるかを物語つている。

これについてヘレフォードは約二〇%をしめており、ショートホーンはわずかに七%にすぎない。とくにショートホーンはかつてニュージーランドにおいて最も愛好されていたのが、現在では四十年前の一〇%以下に減少していることは興味深い。ショートホーンとアバデイン・アンガスは完全に入れ替つてしまつたのである。

ニュージーランドにおけるこれまでの成績ではアバデイン・アンガスがもつとも早熟であり、ショートホーンは肉質良好であるが成熟は他の品種に比較して必ずしも早くなく、ヘレフォードはその中間にあると、ハミルトンのエル・ウイリアムス氏はのべている。

良質の肉を生産するためにニュージーランドにおいてはさかんに一代雑種の生産がおこなわれている。すなわちアバデイン・アンガスの牝牛にヘレフォードの種牝牛を交配する場合がもつとも多い。ニュージーランドを旅行したものは各地で白面無角黒色牛の放牧されているのを見るこゝとが出来る。

この逆交配(バイス・バーサ)もかなり多い。もしも牝牛が貧弱なときに同品種の種牝牛を交配した場合には、その劣つた点がきわだち遺伝する場合が多いが、一代雑種の場合には雑種強勢(ヘテロシス)の結果、早熟性の点で肉牛としてすぐれたものが出来る。

早熟の順位を、ニュージーランド・ロビン家畜部長のジャー・パウアー氏は多年の実績により次のとおりのべている。

- 一、ショートホーン白色牝牛とアンガス牝牛の一代雑種
- 二、ヘレフォード牝牛とアンガス牝牛の一代雑種
- 三、アンガス牝牛とヘレフォード牝牛の一代雑種
- 四、アンガス種
- 五、ヘレフォード種
- 六、ショートホーン種

最近ニュージーランドにおいてはスコットランドからギヤローウエー(黒色牛)が輸入され、マシー大学においても飼養されているが、毎年増加しており、オーストラリアにたいして種牝牛の輸出をおこなつてゐる。ニュージーランドでは黒色牛が人気があるのは日本とよく似ていて面白と思つたことである。もちろん毛色でなくその早熟性と放牧性に重点がおかれてゐる。

これら四品種の登録協会は品種ごとにあつてアンガスはヘイステング、ヘレフォードはフェルディング、ギヤロウエーはウエリントンといずれも北島南部地帯にあり、ショートホーンは南部のクライストチャーチに事務所を設けてゐる。

農林省は昭和三十五年にオーストラリアより、また同三

十六年にはニュージーランドよりそれぞれアバディーン・アンガスの種牡牛と種牝牛数頭の輸入をおこない岩手種畜牧場において飼養している。

三、アメリカの肉牛

(一) 肉牛飼養の概要

アメリカにおける肉牛飼養頭数は約九、七〇〇万頭であつて、ヨーロッパのいわゆる肉用品種を世界で一番多く飼養している国である。そして一ケ年に牛肉一三六億ポンドと犏牛肉一六億ポンドを生産しているが、このなかには乳牛肉をも含んでいる。しかしそれでも不足で毎年カナダより六〇万頭、南米より五〇万頭の牛を輸入しているのが現状である。

筆者はイリノイ州キヤリーにおいてカーチス農場、オハイオ州の中部繁殖組合(コバ)およびワシントン州のノース・エバグリーン繁殖組合を訪問したが、これらはいずれも日本でなら人工授精センターに相当するところである。

これらの農場には乳牛のほかに肉牛の種牡牛五〇頭以上を飼養しており、その品種はアバディーン・アンガス、ヘレフォード、シヨートホーン、サンタガートルーデイスおよびシャルーなどを揃えており、冷凍精液を準備し、希望者にこれを配布し、さらに種牡牛別にアイ・ビー・エムを

利用して後代検定の結果をとりまとめて公表し、飼育者の便に供している。

このようにアメリカでは人工授精が発達しているから、希望によつてあらゆる品種の精液がたやすく自由に入手できるようになってゐる。

料金は前記コバの場合は一四六ドル、二―三回目は無料四回目は一―二ドルとなつてゐる。

肉牛の飼育はシカゴからテキサス州のヒューストンにのびる一線の西部地方に多い。すなわちとうもろこし地帯と乾草地帯が中心になつてゐる。乾草地帯は雨量少く、穀物の栽培に不適であるから牛の放牧が多く、そこで繁殖生産されたものを、とうもろこし地帯の農家が買つて肥育してこれをシカゴおよびカンサス・シティーの屠場に販売するのである。

すなわち素牛の産地は南部テキサス、オクラホマ、アーカンソーの各州と北部ではアイダホ州などが有名である。

肉牛の肥育牧場には年間五万頭以上を肥育する専門大牧場があるが、これらは主としてスイフト、アーマー、モツレルなどの大加工会社の委託肥育をおこなつてゐる。一般に生後一二―一八ヶ月の去勢牛(ステイヤール)を三―四ヶ月肥育して仕上げるものであつて、一日平均増体量は二ポンド三分の一から二ポンド二分の程度であつて、一日一

頭約与セントくらいで肥育をひきうけている場合が多い。

筆者はアイダホ州のボイシー郊外においてシンプロットと称するソイル・ビルダー会社の肥育牛をみる機会をえたが、オレゴンの消費地に向う途中ポテイト、アルファルファ、コーン、ライ、バーレー、オート、ホイトを給与して肥育をおこない、秋に四〇〇ポンドのものを冬は九〇〇一、〇〇〇ポンドの体重にして去勢牛を肥育していた。飼養されている牛はヘレフォードがもつとも多く、アバデーン・アングスと両種の一代雑種がこれについて多く飼養されていた。

このほかにイリノイ州ではデキヤルブ農協の肥育試験場およびアリード・ミル会社の飼料試験場でも肉牛の肥育試験を行っていたが、いずれもヘレフォードを用いていた。またホルスタインの飼養中心地のウイスコンシン州ではヘレフォードを飼養する肉牛牧場が各地にみられた。

さらに帰途ハワイに立寄つたとき、オアフ島を一周したが、アングスとヘレフォードの一代雑種を飼養する牧場をみる機会をえた。

(二) カーネイション農場

ホルスタインで有名なカーネイション牧場では現在約三五〇頭のヘレフォードを飼養しているがそのうちに種牝牛五頭もふくまれている。

乳牛牧場が何故にヘレフォードを導入したかについてマネジャーのファイファー氏に尋ねたのにたいし同氏の返事はつぎのとおりであつた。

すなわち人工授精の実用化は乳牛界の革命であり、これまでに比較し種牝牛の頭数は著しく不用になつてきた。したがつて需要のない平凡な種牝牛を生産することは必要なくなつた。そこでこれまで飼養していた六百頭の基礎牝牛を二分の一に減少して他を肉牛飼養におきかえたとのことであつた。

何故ヘレフォード(しかもポールド・ヘレフォード)を選択したか尋ねたところ、アメリカにおいては同種がもつとも肥育性にとみ、経済的にペイする肉牛であるからとの答であつた。

なおポールド・ヘレフォード登録協会の規程のなかで次のように変つた事項のあることを教えられた。ポールド・ヘレフォードの純粋種の種牝牛と種牝牛の両方を飼養しているものが、他から同品種の精液を導入して自己の飼養する牝牛に注入して分娩した牝牛は当然純粋種として登録することができるのである。

しかるにポールド・ヘレフォードの種牝牛を自分で飼養しない者がポールド・ヘレフォードの純粋種牝牛のみを飼養している場合に、他から精液を導入して自己の牝牛に注

入して出来た犢は純粋種として登録できない。

この規則は大変おかしいが、種牡牛を一頭も飼養しない程度のもはいわゆる繁殖家（ブリーダー）ではないと云うわけである。この規程の改正案が毎年総会に提出されるが、その都度否定されているとのことであつた。つまり種牡牛を飼養するブリーダーのよう護に力を入れていくわけである。北海道庁は本年度の予算で、カーネイション農場からポールド・ヘレフォード数頭を購入し、種畜場の基礎畜として北海道における肉牛の増殖に寄与せんとしている。

（三）キング農場

アメリカでは大面積の牧場のことをランチとよんでいる。ことにテキサス州やカリフォルニア州においては農場（ファーム）といわず、大した面積でもない養鶏場をポトリ・ランチなどとよんでいるのはむしろおかし。

キング・ランチはテキサス州にある肉牛の大牧場である。その面積は約三八万町歩あつて、そこにはサンタ・ガートルーデイス種八五、〇〇〇頭を飼養している。そのほかにサラブレッド二〇〇頭、コーター・ホース三、〇〇〇頭を飼養しており、場内道路は四〇〇マイルあつて約八〇〇名の使用人を有している。

筆者はこの牧場を見学したがその規模の大きいのに驚いた。州立農科大学の実習農場になつており、すべて共同研

究がおこなわれている。

サンタ・ガートルーデイスはブラマン（印度牛）をショートホーンまたはアンガスに交配して、成立した耐熱性のある肉牛であつて、テキサス等南部の熱い地帯の肉牛として利用されている。キング・ランチで毎年大量に生産している自慢の肉牛である。

ついでにコーター・ホースとはどんな馬であるかを述べておく。サラブレッドは一マイル以上走るときは速いが、四分の一マイルすなわちコーター・マイルの短距離をサラブレッド以上のスピードで走り、肉牛の放牧管理にカウボーイが利用する馬のことで、サラブレッドからつくりだしたものである。サラブレッドとともにキング・ランチの自慢の軽種馬である。

現在アメリカの南部諸州にはサンタ・ガートルーデイスが毎年普及しているとのことであるが、その他にフランス産の白牛、シャルレー種がテキサスの各地に飼養されているのを見た。同種も熱帯地方に適した品種であるが、肥育試験の結果は屠肉性はもつとも低いと農務省のレギー氏はのべていた。

数年前にアメリカ側でサンタ・ガートルーデイスを東南アジアに供給するセンターを日本でつくらないかとの申出があつたが筆者はこれを断つたことを記憶している。

四、むすび

はじめにのべたとおりニュージーランドとアメリカにおける肉牛について見聞したことを慢然と書いてみたが、自中でも結論がはつきりしない。気のきいた結論を出すつもりで肉牛の調査をしたわけでないことも断つておいたとおりである。

しかしながらここまで書くことやほり「むすび」を述べないとおしまいにならない。それは昨今肉牛にかぎらず家畜の新品種が豚、緬羊および鶏などあらゆるものについて問題となつてゐるからである。

すなわち肉牛の場合は政府および北海道の一部にオーストラリア、ニュージーランドよりアバディーン・アンガスを輸入しており、また北海道序はアメリカよりヘレフオードを輸入し、その他の県および民間においてもアバディーン・アンガスとヘレフオードの輸入が計画されているように聞いている。

ここで問題になることがいくつかある。その一つは肉牛の輸入によつて日本の草地を利用し、これを放牧によつて飼養することである。つぎに肉牛の最後の目的であるこれから新品種の肉が経済的に飼育者にとつてペイするかの問題である。さらに輸入国をどこにもとめて、どの程度（価格を含む）のものを導入すべきかなどである。

話が具体的になると余程これらの問題についてほりさげておかないと、とんでもないところまでこと志と異つてこめとも限らない。

草地を肉牛に利用することは勿論必要である。人によつては日本の草地は外国の草地とちがつて草種、草生ともに悪いからそれが問題だといつてゐる。しかし筆者はその点では心配しない。あちらでは日本の草地よりもはるかに程度の悪い草地において、肉牛が放牧されている場合がむしろ多いからである。この点は外人もみとめてゐる。

それよりも注意すべきは日本の場合、肉牛の飼養規模をどの程度にし、またその放牧管理の方法をどうすべきかにある。とくにピロプラズモシスの対策については万全の策を要すると思う。オーストラリアにおけるティック・エリアのデイツピング（薬浴）とアメリカにおける予防新薬のスプレー実施などについて研究を必要とする。

かりにピロのため多数の輸入牛がへい死した場合、その衛生対策の不十分な点を考慮せずして、必ず新品種の輸入が失敗であつたとの簡単な結論を出す人が多いし、またそうだと信ずる人が多いことも注意すべきである。

馬を利用しての放牧管理と犬の利用など単なるシネマのまねごと程度と思ふこゝんでは駄目であつて、肉牛の大群放牧ともなれば左様なアイデアと気構えが必要であること

を忘れてはならない。

つぎに肉牛新品種の肉質そのものが日本人と日本料理にうけるかどうか、あるいは家畜商の肉牛取引上の相場がはたして飼育者の生産費を満足させるのみならず、利益を生ずるものになるか。

現在の取引がすべて、一応日本のすき焼むきの、サンのよい肉質を、意識的たると無意識的たるとを問わず、基準として取引している問題をどのようにしてピー・アールしていくか、案外この辺をうまく利用され農家がカモになるおそれはないか。かかる点で日本短角種の場合を思い出す。

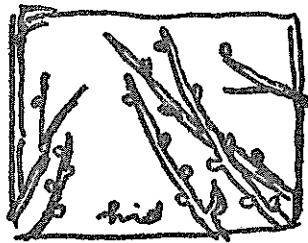
つぎに輸入国としてどこを選ぶべきか。なるほどアメリカの種畜は立派だし価格も高い。英本国はその原産地であり歴史と伝統があるが日本への輸送にはあまりにも遠い。オーストラリアは種畜の値段は比較的安い、牛肺炎に注意を要する。ニュージーランドは比較的種畜の資質良好でその選択地域の範囲が広くないから購買者には便利であるが種畜の飼養絶対数が少ない。

このように心配してくると購買国をえらぶこともなかなか定めにくい。また国や県の種畜の場合と農家の単なる基礎畜程度のものとは選択方法が変つてくる。

さらに農家が外国から肉牛を導入した場合、乳牛のよう

に日銭が入らないし、肉牛素牛の生産により、犢の販売のみで輸入原価の消却に何年を要するか等具体的にめんみつな計算が必要である。

このようなことを考えると肉牛の輸入問題は当然のことながらそう軽率にはやれなくなつてくる。さような意味で筆者の外国見聞記のなにかが「他山の石」ともならば幸せである。



第二回福岡県肉畜共進会の記

古賀 脩（九州大学助教授農学博士）

五斗 一郎（同 助手 農学博士）

序 文

昭和三十六年十二月六日から二日間、第二回福岡県肉畜共進会が開催されたが、肉牛の部においては生体、枝肉ともに、前回に比較して、格段の進歩が認められた。とくに若齡肥育の成果については、まことに注目すべきものがあつた。なお出品された若齡肥育牛は、大部分が羯毛の去勢牛であつたために、今さらのように羯毛の肉の価値を認識された向きもあつたようである。

近年こうした催しが各地で展開するにつれて、生体と枝肉との二本立の審査に対して、これを重荷と感ずる審査員があると聞くが、その考え方ははなはだ無責任といわねばならない。肉牛の取引きを枝肉取引きにしたいことについては、今さらいうまでもないことであるが、生産者としては仕上げの判定を生体による必要があるので技術向上のために、生体と枝肉との関連を判定する手がかりを合理化するのは、識者の責任である。現在肉牛の審査標準がこのために制定されているけれども、これはまだ理想的なものとはいえないはずである。識者としては常にその改善を心がける責任があると思はれるが、そのために現状を客観的に分析する必要があるだろう。

右のような見解に立つて、この共進会の実績を、第三者の立場にある古賀、五斗の両博士に依頼して、統計処理と写真とによつて、

あからさまに分析してもらつたので、その結果を簡単に取りまとめたのが本稿である。関係各位の御参考になる点が少なくないと確信し、あえて紹介するにたいである。

（審査委員長 岡本正幹 記）

共進会の概況

この共進会の性格なり目的なりについては、さきに岡本正幹教授が「福岡県肉畜共進会所感」として、本誌第七号に述べてあるので、重複を避けるため詳細は省略するが、要するに生体と枝肉との双方について総合的に審査し、従来の共進会ではややもするとなおざりにされがちな、経済的裏づけを重視するという点が、大きな特色となつている。筆者らはこの共進会の状況を、つぶさに参観する機会を得たので、簡単に所感をとりまとめてみたい。

今回の共進会には、県下一二農協から三六頭の出品があり、その内訳は若齡肥育牛が一二頭（黒毛二頭・褐毛一〇頭）、去勢壯齡または普通肥育牛が一五頭（黒毛六頭・褐毛九頭）、雌肥育牛九頭（黒毛のみ）であつた。

これは昨年と同様、去勢の短期肥育には褐毛をもと牛とする、一般的傾向を反映している結果であり、今後褐毛の肉畜的性格が強調されるにつれて、褐毛去勢牛の出品はますます増加するのではないかと予想される。

生体に關する所感

生体審査を通じてとくに強く感じたのは、若齡肥育牛の部の充実であり、昨年の出品牛にくらべて著しい進歩が見られることであつた。これはこの二三年來急激に若齡肥育牛が増加している現象と関連があるにしても、生産者および指導員の方々の努力がうかがわれるようで、褐毛和牛に関心を寄せるもの一人として、頼もしく感じられた。しかしさらに欲を言えば、多くのものでまだ脊幅が貧弱であり、後軀とくに腿の發達が劣つていゝように見受けられた。出品牛のうちでAクラスに区分されたものの例を写真で示すと、第一圖および第二圖のとおりである。

なお現在、若齡肥育牛については、特定の審査標準は制定されておらず、肉牛審査標準の去勢の部に含めて審査されているときが、この点には多少問題が残されているように思われる。今後若齡肥育が普及増加する傾向にあるという現状を考慮して、合理的な審査標準の制定なり、發育曲線の作製なりが、検討されてよい段階にきているのではないだらうか。

つぎに去勢壯齡および雌肥育牛の部は、昨年と大差なく若齡肥育牛にくらべると見劣りが大きかつた。一般的にいって、肥育の程度が不足で体重四五〇キログラム前後のも

のが多く、若齡肥育牛とまつたく差がない状態であることが注目された。これは出品牛がいずれも短期肥育によるものであることに原因していると思われる。ただし念のため断つておくが、壯齡の去勢牛を標準に合致するようになるまで、肥育することが有利であるかどうかは、またおのずから別問題であり、この点についてはさらに經濟的立場からの検討が必要であらう。

つぎに体型の点からは、若齡肥育牛の場合と同じく、後軀の充実を欠くものも多く見受けられた。これはさきに述べた肥育の不足とともに、もと牛の選定にも問題があると思われる。肥育の出發にはもと牛の選定が重要であることは、すでに十分指摘されているところである。しかし現在の取引慣行からみて、もと牛の選定は實際上きわめて困難らしいので、今後選定をたやすく行ない得るような取引慣行を確立していくとともに、牛そのものの改良にもまたねばならないだらう。

それはともかくとして、去勢壯齡牛および雌肥育牛の部から、それぞれ一頭をえらんで圖示すると、第三圖および第四圖のとおりである。

枝肉に關する所感

生体審査の翌日、枝肉の審査が行なわれたが、枝肉の形

・皮下脂肪の厚さ・「さし」の状態など、昨年と比較して良好なものが多く見受けられた。これは生体の外観が、昨年に比べて格段に良くなっているので、当然のことといえるが、肥育技術の進歩を実感として感じさせるものがあった。ただ歩とまりについては、正確な記録が手もとにないのでつきりはいえないが、一般的にあまり良好ではないということであつた。

つきに肉質とくに「さし」の点についていえば、今回は若齢肥育牛においても、かなり良いと思われるものが二、三見られた。これは若齢肥育牛が単に肉量の点からだけでなく、肉質の点においても、今後相当の期待がもてることを示すものといつてよいであらう。

第五図は若齢肥育牛の枝肉群であるが、第六図と第七図は、それぞれ第一図および第二図に示した牛の枝肉断面を示したもので、従来の観念から考えると、若齢では「さし」が入りにくいとされ、とくに褐毛ではその傾向があるという人もあるときいていたが、この程度なら若齢としては立派なものといえるであらう。なお褐毛では毛色の淡いものは、「さし」が入りにくいといわれるとかいうが、事實は必ずしもそうでないらしく、第八図は生体の毛色では失格相当の淡いものであつた、去勢壯齡牛の枝肉断面であるが、かなりの「さし」がはいり、枝肉としてはAと評価さ

れたものである。こうした問題点も今後十分に検討する必要がある。第九図は第四図に示した黒毛の雌牛の枝肉断面で、当日最高に評価されたものである。ほとんど粗飼料を与えない、特殊の飼いで肥育されたものということである。

生体審査と枝肉審査との關係

生体審査と枝肉審査との結果は、原則的にはお互いに一致することが望ましい。しかし前者は主として体型に重点がおかれ、後者では肉質が重要なポイントを占める關係から、完全な一致が望めないということもまた、現状では止むを得ないことであらう。とくに各農家における飼養管理の實態を把握することができない、現在の共進会のあり方では、生体から枝肉の状態を推測することは、至難のことといえよう。しかしそれだからといって、肉牛の審査方法を、現在のまま放置してよいということにはならないはずである。今後より合理的な審査を求めていくためには、まず実状を正確に認識することから、出発しなければならぬであろう。またこれらの議論をぬきにしても、第三者的な無責任な立場からは、両者の評点がどの程度合致するものであるかは、はなはだ興味のあることである。このような意味から、今回の成績について両者の關係をまとめてみた

のが第一表である。ただしこの共進会では、個体ごとの序列はつけず、A・B・Cの三段階に区分して評価することになっているので、ここでもその評価法によつた。

第一表 生体審査と枝肉審査との評点の相関関係

		枝肉審査の評点			
		A	B	C	計
生体審査の評点	A	6	3	1	10
	B	4	7	3	14
	C	0	7	5	12
	計	10	17	9	36
相関係数		0.526 **			

** 1%の危険率で有意

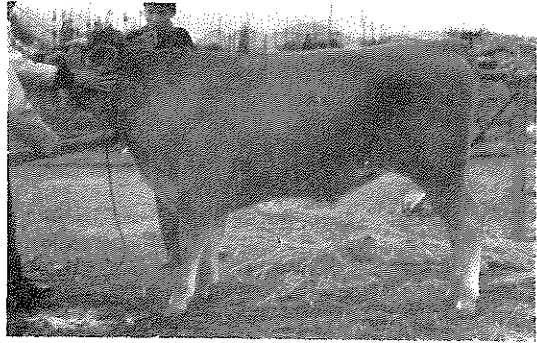
第一表から明らかなように、両者の評点が一致したものは一八頭で、全体のちようど五〇%にあたり、生体より枝肉の方が一段階上位にあるものが一一頭、逆に枝肉の方が一段階悪かつたものが六頭、二段階の差を示したのが一頭という結果であつた。またこれらの間の相関係数は〇、五二六で、高い相関関係が存在し、両者の評点は比較的良好一致していることを示すように思われる。ここで生体等級と枝肉等級との相関について、従来報告されている外国の

例を参照すると、ヤオ氏ら（一九五三）は〇、七〇、キッドウェル氏（一九五五）は〇、六〇三、カートライト氏ら（一九五八）は〇、四五という値をあげており、今回得られた結果もこれらと大差はないことがわかる。なおここで注意しなければならぬのは、今回の結果は評点の変異幅が小さく、A・B・Cの三段階にしか区分されていないことである。このような場合には、相関係数は高い値を示しがちなことを考えると、むしろ両者の評点が一致したものが五〇%であつて、生体がCで枝肉Aと評価されたものがなく、生体Aで枝肉Cと評価されたものが一例にすぎないことに、留意した方が妥当のようにも思われる。

生体と枝肉との評点が完全には一致しにくい理由は、さきに述べたところであるが、審査標準そのものにも多少問題点は残されているだろう。今後生体と枝肉との関連性をさらに重要視するような、審査標準合理化への努力がはらわれることが望ましい。

あとがき

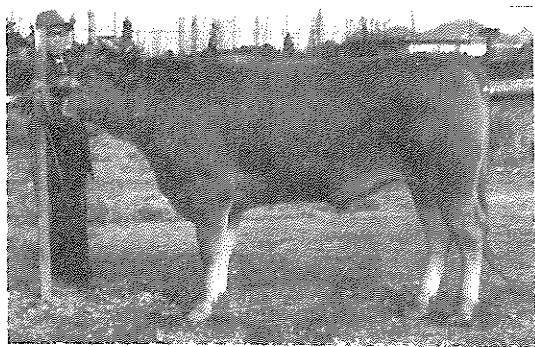
筆者らはつねづね褐毛和牛に対して、深い関心を抱いているものではあるが、遺憾ながら実際面での接触の機会にはなほ少ない。したがつて本稿でも誤まつた解釈による記述があるかもしれない。これらの点を御寛容願つて、なおいくぶんなりとも御参考になる点があれば幸いである。



第一圖



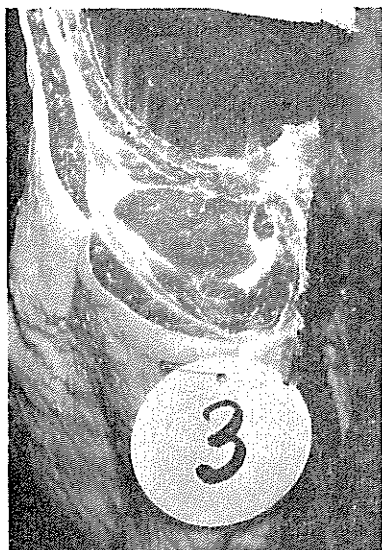
第二圖



第三圖



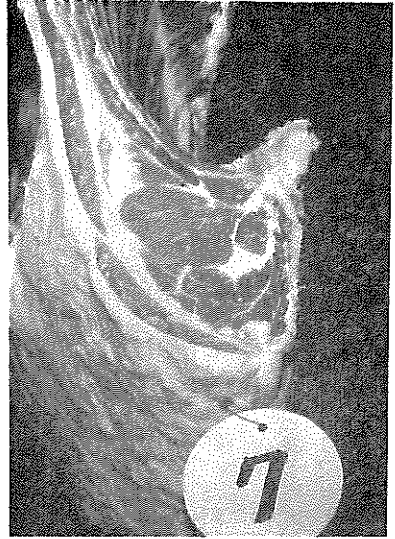
第四图



第六图



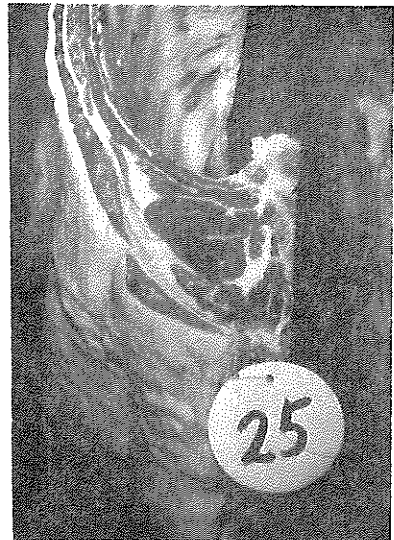
第五图



第七图



第九图



第八图

写真説明

第一図 褐毛和種去勢一四カ月、体重四四二Kg・脊線がよく脊幅もまずよい方だった。しかし腿がきわめてさびしかった。

第二図 褐毛和種去勢一六カ月、体重四七七Kg・脊幅があり、しまりもまずよかつた。しかし脊線が弱く、肋張りが不足していた。

第三図 褐毛和種去勢四才、体重四九九Kg・去勢壮齡ではよい方であつた。枝肉も悪くなかつた。しかしこの程度が上の部では壮齡肥育の仕上げとしてはさびしい。

第四図 黒毛和種雌六才、体重四九五Kg・現行審査標準では体型は良いとはいえなかつた。しかし資質だけはかなりよかつた。特殊の飼い方をしたもので、枝肉については当日の最高であつた。

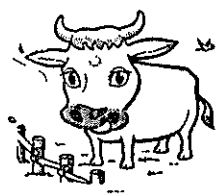
第五図 若齡肥育牛の枝肉群。

第六図 第一図に示した牛の枝肉、歩とまり五九、九%・皮下脂肪はうすかつたが「さし」は良好。ただし色は少しうすかつた。

第七図 第二図に示した牛の枝肉、歩とまり五九、〇%・皮下脂肪は適度で「さし」もよくはいり、ロースの眼(しん)も太く、色もよかつた。

第八図 種畜なら生体の毛色で失格相当とみられる去勢壮齡牛の枝肉、歩とまり五九、九%・かなり「さし」がはいり、形状もよかつた。

第九図 第四図に示した牛の枝肉、歩とまり六二、二%、さしはみごとであつたが、脂肪の質にやや難点があつた。現在の枝肉取引慣行では、こういうものがトップレベルである。



和牛と草をめぐって

黒肥地 一 郎

(農林省 九州農試
畜産部 農林技官)

一、まえがき

同じことを行なうにしても、人と環境及び時点によつて、その方法なり考え方は異なる場合が多く、それに伴う事象についての判断もそれぞれ違ふものである。

現今における和牛の飼養問題についてみてもそんな感じが強い。今から数年前と今と比べるならば、和牛の改良方向や飼養管理について、人々の考え方が急速に変化していることは疑う余地がない。

極言すれば、和牛即ち肉牛の考え方が年々高まつてきていると云う事である。これは見方をかえれば畜産が産業であり、また、経済行為として営まれることが本筋である以上、和牛飼養の目的が過去において何であろうと、飼い方がどうであつたらうと、現在の時勢にあつた肉用としての飼養目的がたてられ、飼養方法がとられない限り、和牛の飼養価値は次第に減少し、和牛とは山間僻地零細農家の役畜、養畜として名残をとどめるようになることを意味する

ともいえよう。

しかし、今すぐそんなになるとは考えられないが、今後のもつてゆき次第ではその可能性はあるものと思つた方が無難のようである。この事を如何に判断するかは人によつても異なるだろうが、少くとも私はそう判断したい。また一面、あせつてみたところで相手は牛のこと、そう簡単に目標に達し得るものでもなし、せいては事を仕損んずる、とも考えられる。しかし目標と方法を明らかにするのに何も早すぎることはなからう。

元來和牛は、役に用い、その後、肉を利用する役肉兼用牛として飼われて来たもので、粗悪な飼料で、しかも多くは零細規模の一頭飼として飼養され、悪条件に対する抵抗力が特性の一つとして認められてはきたが、その用畜的経済性については必ずしも大いにその性能を発揮したとはいえないだろう。

それどころか、一寸、和牛の飼養管理に金をかけるとすぐ損をする、といわれ、和牛飼育は金をかけない事がもうけの秘訣と云つている人さえいる始末、裏をかえせば和牛は、他の用畜に比べ金をかけても、経済効果を生み出す能力が低いから損だと考えられているのである。

そして、これらの考え方が具体的には和牛飼料を稲藁野草に少しの米糠位ときめつけ、和牛を生かしておく事が和

牛を飼っていることと考える思想に直結し、栄養不足のた
め体が小さく、頭だけが大きい牛をみても少しも変に感じ
ないことと大いに関連がある。

この考え方が大手をふつて通っている間は、和牛が経済
効果の高い肉畜として脱皮することは極めて困難であろ
う。そこで和牛の飼養目的を肉用重点として繁殖または肥
育する場合、生産コストが低く、しかも牛の発育或は増体
が出来るだけ順調な飼養型態を必要とし、その一つの方法
として人工草地放牧を含む草利用がうかがひ上つて来る。

二、草利用飼養の必要性

牛に草を食わせて、肉をつくり、乳を搾ることは、牛飼
いの本筋であることは今さら云うまでもなく、良く理解さ
れていることである。

特に和牛の場合は、繁殖牝牛、育成牛の飼料として、草
を主としていることも事実であり、肥育牛の場合は、逆に
濃厚飼料に重きをおく上物肥育の方法が肉牛肥育の飼養の
あり方だと理解されていた。

しかし、肥育牛の場合も、食肉の需給バランスをとるた
め、肉牛の増産が叫ばれ、これに伴い、大衆肉の増産が大
きな目標とされるにいたつて、肥育様式も成牝牛の理想肥
育から、去勢牡犊の若令肥育等の若い牛の肥育に、目がむ

けられていた昨今においては、濃厚飼料を多く用いた「シ
モフリ肉」をつくる飼養型式から、草を主とした飼い方に
移行することが、肉牛肥育の経済効果をあげるために必要
となつてきている。

そこで、問題となるのは、一般に乳牛飼養の場合には、
良質牧草を用いて飼養することが常識となつており、飼料
作物の栽培、人工草地の利用等は総て乳牛のためと考えら
れ、和牛に適用することはあたかも金を捨てることである
かのように考えられていることである。そして、和牛の草
利用といえば野草利用であり、ほんの申わけ程度の飼料作
物を利用するか、自然草地に放牧することが行われている
にすぎない。この事は、草利用が繁殖牛、肥育牛をとわず
生産コスト引下げの手段であるとすれば、極めて矛盾した
やり方と云わねばならない。和牛が草と結びつき、草が土
地と結びつくのであれば、牛そのものが土地と結びつき、
土地の生産力そのものが牛或は肉の生産力となつて現れる
筈である。従つて、限られた面積から出来る限り多くの牛
や肉を生産する為には、反当栄養生産量をあげる必要があ
ることは云うまでもない。そうなると栄養生産性の低い野
草より良質牧草及び飼料作物の方がすぐれ、草地利用の場
合でも、維持管理の不完全な自然草地より、集約的な人工
草地の方が遙かに偉力を発揮することは当然であろう。た

だ、飼料作物栽培及び人工草地造成のためには、多額の経費を必要とするため、現在のように低い生産性を有する和牛のために利用することは、経済行為として採算がとれないことが心配されているものと考えられる。

しかし、こゝで考えてみたいことは、土地の生産力を高めるため、一時的には、多くの経費を投じて開発したとしても、開発された土地は、そのまま、残るものであり、維持管理に留意すれば、利用することによつて反つて生産力は高まり、集約的な和牛飼養が可能となり、反当飼養頭数も多くなるので、土地利用面からみて、和牛飼養、肥育の経済効果が高まることは想像に難くない。

従つて、限られた面積の、せまい園土の中で、現在よりも多くの牛肉を増産することが真に必要であれば、一時的な経費、労力等の障壁をのりこえて集約的な草地、或は草利用の和牛飼養型態を作るよう努力すべきではなからうか。

しかし、今後の和牛そのものの必要性が現状程度か、これより少し高くなる位との考え方が妥当であるとすれば何おか云わんやである。

三、草利用の問題点

ところで、主に草を利用した飼養を行なうとすれば、技術的にはどんな問題が生れて来るであろうか。

先づ第一にどんな草を給与すればよいか、草種の選定が問題となる。このことは、牛に給与する側からも、草を栽培する側からみても重要なことで、気象及び土壌、その他の条件を考慮し、その土地で最も栽培し易く、栄養価の高い、牛の嗜好にあつた草が作られねばならない。普通、飼料作物或は牧草として栽培されている草種は、全国的に北方型のものが多く、そのため暖地においては、夏期における木化が早く、また、北国或は高冷地に比べて繊維やリグニンの含量も多く、また、草地を造成してもその利用年限が短いことが認められている。これは、牛の粗飼料消化能力が暑熱時に、他の季節に比べて低下し、特に肥育飼料給与時においては、粗繊維の消化率が低下することと考えあわせ夏における和牛の増体率低下防止の一つとして、地域的に利用期間の長い良質草種の選定や栽培法を検討しなければならぬ事を意味している。(九州では南方型牧草の研究が進められている。)

第二に問題となるのは、草の利用法及び利用限界である。

和牛に対する草の給与法を大別すると、放牧により採食させる方法と刈取つて生草、乾草、およびサイレージとして牛舎で給与する方法に別つことが出来る。

勿論、今までもこの二つの方法が和牛飼養のためとられ

て来たが、過去における放牧は、粗放的な自然草地における放牧であり、草生維持、草種改良等に意を用いられていないので、この場合で云う放牧とは人工草地、或は改良牧野による放牧という事で舎飼の場合と比較してみよう。すなはち長短を列記すれば、

〔放牧〕

長 所

- 1、飼養管理の労力が少ない。
- 2、良い草地においては牛の発育に必要な養分を多く与えることが出来、濃厚飼料を著しく節減する（生産コスト引下げ）
- 3、放牧中において、牛に充分な日光と運動を与えることが出来る。（若令牛に特に必要）
- 4、牛に養分の多い草を選択採食させることが出来る。
- 5、糞尿投下により地力が増す。

短 所

- 1、舎飼に比べ一頭当り面積が多く必要
- 2、自然現象、特に暑熱の影響をうけ易い
- 3、地域的制約がある。
- 4、牛個体毎の管理が不充分となり勝ちで事故牛の発見がおくれ勝ちである。
- 5、厩肥の生産が出来ない。

〔舎飼〕

長 所

- 1、飼養管理のため大面積を必要としない
- 2、一頭一頭毎の管理が行きとどき不利な自然条件より牛を保護することが出来るので牛の体力消耗が少い
- 3、比較的地域の制約をうけない。
- 4、厩肥生産力が可能である。

短 所

- 1、濃厚飼料を比較的多く必要とし、一頭当りの労力も多し。（放牧採食の草は刈取りのものより養分が多いので、舎飼の方が濃厚飼料を多く必要とする）
- 2、畜舎及びその他の一頭当り施設費が放牧の場合より多くかかる。
- 3、牛による草の選択採食が行われにくいので、人為的な影響を受け易く、場合によつては養分摂取量が不足することがある。

等があげられる。

しかしこのように比較して優劣を決めたところで、現実としては、地理的条件によつて何れの方かをえらばざるを得ない。

すなはち、草地に恵まれた地方でなければ放牧による草利用は出来ないし、草地や耕地面積のせまい地方や都市周

辺の農家では、濃厚飼料を主とした飼育、例えば、去勢牝犢若令肥育の仕上げ期、経産牝牛の短期肥育を行なうのが有利であろう。そして現下の実情からみて草地に恵まれた仔牛生産地帯で、草地利用の若令肥育や、経産牝牛短期肥育用の素牛造成が行われ、主として平坦部にある仕上げ肥育地帯と有機的に結びつくことが、なお、和牛の草利用を順調にのばすことにもなるものと考えられる、そこで、和牛飼養における草利用の限界であるが、これを簡単に述べることは極めて難しいことであるが、和牛個体の採食能力をほど一定と考えるならば、良質の草は質の悪い草より多給与出来ることだけは間違いない。一つの例をあげてみると、

モリソンの肉牛飼養標準によれば、体重、一八〇kgの牛一頭一日分の所要養分量は、D・M四、三―五、四kg、D・C・P、〇、四七―〇、五二kg、T・D・N三、三―三、九kgである。

次表の飼料によつて、これを満足させる場合、草を出来る限り多く給与することにして検討してみよう。

飼料	養分		
	D. M	D. C. P	T. D. N
オーチャードグラス	20.5%	1.50%	11.50%
野 草	21.6	0.88	10.75
トモモロコシ	87.5	7.50	83.50
大 豆 粕	90.0	40.0	76.50

一日の飼料を風乾物で五、五kg（標準の範囲内）給与すると、オーチャードグラスのみで、風乾物五、五kg相当量を給与してみると

風乾物 5.5kg ← 生草約 24.8kg
オーチャード・グラス

D. M D. C. P T. D. N
5.08kg 0.37kg 2.85kg

どうやら食える量であるが、可成り無理しないと食えない量で、しかも養分が不足している。

オーチャード・グラスを主として、トモモロコシ、大豆粕と組み養分を補つた場合、

2.0kg 風乾物 3.5kg ⇨ 生草約 15.8kg

トウモロコシ 1.7kg 大豆 粕 0.3kg	オーチーフ・グラス
----------------------------	-----------

D, M D, C, P T, D, N
5.00kg 0.49kg 3.47kg

食える量で養分も間に合う。

しかし、牧草の代りに中等度の野草とトウモロコシ、大豆粕と組んだ場合

3.2kg 風乾物 2.3kg ⇨ 生草約 9.2kg

トウモロコシ 2.7kg 大豆 粕 0.5kg	野草
----------------------------	----

D, M D, C, P T, D, N
4.8kg 0.48kg 3.62kg

養分は間に合っているが、野草の割合をこれ以上増すと不足する。牧草の場合と比べれば著しく濃厚飼料の割合が多い。

以上の例で示したように、良質の牧草は合理的に、多くの割合で給与出来る。従つて、濃厚飼料の節約になる。その上、良質牧草類は稲藁等と異り、給与しても草腹になることは殆んどない。ゆえに最近では肥育牛の飼料としても飼料作物の利用が増えてきている。

特に発育中の去勢牡犢の若令肥育前半期では、大いに良質牧草給与が行なわれる事が望ましい。

しかし、舎飼で刈取給与の場合は、草類は風乾物で総飼料量の六〇〜六五%以内でないと充分な養分の給与は難しいようである。

ところで、同じ草利用と云つても、放牧の場合は大分趣が違つている。そして、放牧方法にも色々な方法がとられている。しかし、一般にこの場合は、草の利用割合が舎飼の刈取給与の場合より、ぐんと多くなり、極端な場合は濃厚飼料無給与の場合さえ考えることが出来る。粗悪な野草地であれば、こんなことで栄養良好な牛の飼養は難しいが、良質の牧草地であれば可成り良い成績が得られるのである。

特に、発育期にあたる若令肥育の前半期、栄養不良の素牛の飼いなおし等には最も有効と思われ、九州農試の試験によつても、生後六月令から十三月令まで、濃厚飼料無給与で、昼夜輪換放牧した若令去勢牡犢が一日当〇、八kgの増体を示している。

そこで、普通の刈取による給与では、牧草のみで、こんな調子にゆかないのが、放牧の場合はなぜ出来るかしらべてみよう。

放牧の利害得失は前にも述べたが、その中で最も関係がありそうなのは、放牧草地で利用するときの草の草丈、生

育程度及び採食部位であろう。すなわち普通、刈取給与する場合は牧草は、反当生草収量と草の成分からみて、最も養分収量の多い時期に刈取つて給与するが、放牧の場合はこれより若い生育程度で、草丈も二五cm位で採食させるのが常道とされているので、反当生草収量は前者より少ない。

しかし、同じ生草重量当では、放牧利用の草の方が、若い草で水分が多いにもかゝらず可消化粗蛋白含量が多く粗纖維含量が少く、一定の採食量による可消化粗蛋白摂取量が多い。(一方若い草には非蛋白態窒素の含量が多いともされているが、放牧草地利用としては、若い草を食わせた方が有利である。)

従つて、放牧により草を利用する場合には、D・C・Pの不足よりも、むしろ固形分及びT・D・Nの不足が心配になる位である。そこに放牧中における補給飼料が効果を發揮する余地があるともいえる。試みに放牧草地の草と刈取り利用する時の草を比較してみれば、次表のとおりで、放牧の場合は種料牧草でさえも、窒料に衰らぬD・C・P養分が含まれていることが判る。

草 種	放牧による場合			※刈取による場合		
	D.M	D.C.P	T.D.N	D.M	D.C.P	T.D.N
ラデノクロバー	16.6%	3.3%	12.4%	—	—	—
レッドクロバー	—	—	—	27.3	3.0	19.0
バーズフツト トレフオイル	20.0	4.6	15.0	25.0	2.7	15.2
オーチャード グラス	23.9	3.2	15.9	27.5	2.3	18.2
イタリアン グラス	20.0	2.9	12.1	27.1	1.9	18.3
スーダングラス	21.6	2.4	14.3	23.4	1.4	15.4
ジョンソン グラス	25.0	2.5	15.6	35.0	1.5	20.6
ダリスグラス	25.0	2.2	16.0	30.0	1.3	17.4

Morrison「Feeds and Feeding」より

※は出穂～開花のもの

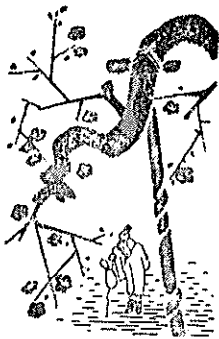
なお、放牧中において和牛が採食する草の採食部位は、草量が充分であるときは、主として葉先を採食し、その時

の草生によつて適宜選択して、採食するが、採食した部位を調べてみると、著しく養分に富んでいることが認められる。しかし、草地内の草が伸びすぎ、繊維やリグニン含量が増えて来ると、放牧中の摂取養分は著しく少なくなり、牛の増体も少なくなる。これらの点からみても草地利用肉牛飼養の場合における草生の維持管理及び放牧方法が、成否の鍵となることがうかがわれよう。これらのことは、草利用による和牛飼養にも守らねばならない多くのルールがあることを教えるものである。従つて、草を作ることに利用する技術が両方そろわねば満足な成果は得られないことを理解していただく一助になればと思つて述べたまでである。

むすび

草利用による和牛飼養について極めて断片的に述べたが勿論これを以て云いつくしたのではない。舎飼で飼うにせよ放牧を行うにせよ、これに附随した問題が山積しているのである。これらの問題の一つ一つが解明されて始めて、真の姿の草利用和牛飼養型態が出来るものと考えられる。しかし、良い草を積極的に活用しようという決心が出来、解明されていることだけでも、ルールに外れないよう守つてゆけば、今よりは栄養改善による和牛の繁殖率の向上や

牛肉の増産が可能であり、和牛飼養の経済効果もやがては大きくなるのではなからうか。また、肥育についても、特別な飼養型態による和牛の理想肥育が、良い牛肉をつくるために必要であり、それを行う人々が結構収益をあげているのを見て、これが和牛肥育の本道だと考えることは、競争馬の飼養管理を以て、これが馬飼いだと考えることと同じである。一部の人が優秀な能力の競争馬を育てる必要性は、今後もつゞくであろうが、これは決して産業ではない。私は和牛が競争馬的な存在にならないよう切望するものである。そして、そのためには合理的な草利用による飼養型態の確立が残された道の一つであると信じて疑わない。



アメリカ留学雑感 (二)

真木芳助

(農林省九州農試
畜産部農林技官)

黑人専用ホテル

自動車でアメリカ中南部の砂漠地帯を旅行するとき、土地の人は必ず次のような注意を与えてくれる。つぎの町にいったら容器一杯に水をつめ、食糧を買い、自動車のガソリンは満タンにして、夏ならば真昼の暑い時は休み、夜明けか夕刻に砂漠を横断しなさい。もし途中で自動車がエンプティなら、ラジエーターの水は干あがり、乗っている人間が暑さのために参つて終う、というのである。

助けを求めても道を通る車の数は少なく、近くの町へ連絡がとどくまで二―三時間はかかるからであらう。つい最近まで、こうして助けを求める人も多かつたときいたが、今は高速道路の建設が進み、自動車の性能がよくなつたので、案外少なくなつたとか。広い真直ぐな道路、砂塵を巻き上げ真向から吹きつける空ッ風をうけながら二時間余り走り続ける。真紅の太陽が小高い丘の向うに沈み、黄、ダイダ

イ、ピンクと次第に変化する空を背景に浮ぶシルエツト、視界をさえぎる何物もなく、刻一刻と、空の色が變つて行く様はほんとうに美しい。砂漠の夕暮を過ぎ、あたりが墨色に變り、やがて自動車のヘッドライトだけが白く光り、赤いテールランプが列をなして点滅する夜のハイウェイと變る。時折り、すれ違う車のヘッドライトがまぶしく目を射り、アツという間に通りすぎる。スピード感が鈍り眠くなる。そろそろ宿を探さなければならぬと思つてはいるのだが、なかなか次の町に着かない。さきほど満タンして来たはずのガソリンがぐんぐん減つて行くような気がする。燃料計の針をにらみながら更に三〇分走り、ようやく町らしいところについた。ホテルと赤いネオンの入つた建物の入口に立ち、あたりを見廻したが薄暗く人の気配がない。ノックして中に入り、マネージャーのいるカウンターに近ずいた。そこには口ヒゲをはやした屈強な黒人が立つてこちらを見つめていた。

今夜一晩泊めて貰いたい部屋はあるか? と聞いた。彼はするどい目つきで私の爪先から頭まで見廻し、あなたはどこから来ましたか? と至極丁寧な口調できいた。私は日本人だが、只今旅行中で一夜の宿を捜している、と答えた。すると、彼は、ここは黑人専用のホテルです。あなたは黒人ではありませんからお気の毒ですがここ

に泊ることはできません。ここから自動車で三十分、約三〇哩の町に白人専用のホテルがあります。そのホテルならあなたを歓迎するでしょう」といふ。

こうしているうちに二三人の黒人が私を取り巻いてケゲンな顔つきで私の顔を見ている。何事か起りそうな気配に私はゾットして寒気がした。はじめ入ったばかりのときは、部屋の中が、うす暗くて何も見えなかつたが、だんだん目がなれて来たせいか少しづつ内部の様子が判つて来た。そこはホテルのロビーのようなところで十四五人の黒人男女がソファーにかけながらみんなこちらを注目している。あたりが薄暗いので目だけが白く光り気味が悪い。すると誰かが甲高い声で「あなたは日本人？」と聞いて来た。そしてタドタドしい日本語で「ワタシニツポンスキデス」といつて、コップを出しビールを注ぎ乾杯しようといふ。折角だから一杯だけ御馳走になり、「ヨコハマ、サセボ、シツテルカ？」などと矢つぎ早やの質問に閉口して「急いでいるからこれで失礼する」といつて早々に退散した。最後にグッドラックといつて握手された手はシビレルように痛かつた。

それから三〇分ようやくたどりついた白人専用ホテルに温かく迎えられ、疲れた砂漠の一日を終つた。

日本人は白人待遇

北部では、白人の女子学生と手をつないで散歩する黒人学生を何度もみかけたが、南部に来ると状況は一変する。白人は先祖代々、黒人と同席せず」といふ鉄則をもつていゝ。法文上は人種平等をうたつていゝはずであるが、実生活における人種差別は実にハッキリしているようである。とくにミシシッピ、アーカンソー、アラバマ、ルイジアナの諸州がひどく、白人優遇の不文津が厳として存在している。このことは日常生活や社会生活の上にはつきり現われている。

先ず乗合バスの乗車順位は白人が先、またバスの前半分は、白人席、後半分が黒人席になつていゝ。別に貼紙があり指定されていゝるわけでないのに、習慣といふか、自然にさういふ席順に座るのである。私はそれとは露知らず最初から一番前の席に坐つていゝた。運転手が親しく話しかけ、どこから来たか、どこまで行くのか、何か不自由なことがあれば助けになつてやる、などといつて極めて親切である。私の後坐席に坐つていゝる白人達も別に気にも留めていゝない様子であつた。あとで黒人達の席順に気がつき、何故黒人達が後坐席につくのかと思ひ、試しに後に坐つてみた。ところが乗降する黒人一人一人がジロジロと私の顔をみて不

思議そうにしている。バスのエンジンは後部にあり、発停車のたびにゴウゴウと騒音がひどい。乗心地の悪いことの上ない。そこでまた前座席に移り、冗談半分に、日本人はどの座席に坐ればよいかと運転手にきいてみた。彼は笑いながらいわく、日本人は白人待遇ですよ、どうぞ一番前に座つて下さい」と。

これと同じような人種差別の風習はいたるところに見受けられる。便所には、ホワイト・オンリーと入口の扉にペンキで書かれて、黒人は用便できない仕組みである。ミシシッピー州では白人の女をおいかけ強姦した黒人は終身の刑になるのに、白人同志の場合はせいせいブタ箱に入る位の刑で終る。こうした不文律による差別待遇に黒人が黙っているはずがない。酒をのむたびにその鬱憤を爆発させ白人にくつてかかり大騒動になる。このため、南部では禁酒制をしいている都市が多い。禁酒といつてもそれは表面だけのことで、蔭では白人も黒人も充分に酒をたしなんでいるようである。ある日私がビールを買いたいと思つて食料品店に行つた。白人の店主は、この町は禁酒制をしいているから酒類は一滴もありません。あなたが飲むのはかまわないが、この土地の人は酒を呑みません、どうしても悪しければ隣の町まで自動車を走らせたらい、でしよう。ここから約四〇分で行けます」といふ。仕方なく諦めて店を出

ると、傍でまいていた黒人の店員が後を追いかけて来て、ウイスキーでよいならナイシヨで探してあげるがどうか？といつて来た。値段をきいたら馬鹿に高い。さつきの店主もビール、ウイスキーをナイシヨで持つているし、自分も飲んでゐるんだが……と禁酒都市の内情を話して呉れた。

こういう人種差別のおおりをくつてゐるのが印度人留学生である。印度はちやうど日本の明治維新にも相当する時代であろうか、海外の學術、文化を吸収すべく、毎年たくさん留學生が渡米してゐる。その多くは印度の氣候風土に似たアメリカ南部の大学に留學する。ところが偶々皮膚の色が暗黒色であるため黒人と見做されて差別待遇を受けることになる。そして半年、長くて一年もたたぬうちに北部へ移動を始める。北部諸州の大学に籍をおく印度人學生の何人かは、必ずこうした経歴の持主であつた。

女房カンパク

亭主関白に対し女房カンパクという言葉があるかどうか知らないが、アメリカの家庭は女房カンパクである。大学が経営する既婚者向のアパートを借りて引越し、日本式に隣近所に挨拶に行つた。トントンとノックしたら、出て来たのがその家の亭主、体重二五〇六貫、身の丈六尺五寸も

あろうかと思われる大男である。私は、今度二階に引越して来ました〇〇です。どうぞよろしく、と名刺を出して一礼した。男はその名刺を手にして読もうとしたら、横から白い手がヌーツと出て、どれどれどなたですか……と云う女の声、いうまでもなくこの家の女房である。そしてその大男の亭主を後におしやり奥様自ら笑顔をつくつて丁寧な応接ぶりである。亭主殿は長身を利用して女房の頭の上からこちらをみ、ニヤニヤしている。ついでその隣に挨拶に行く。カムイン、プリーズというから入つていつた。奥様は子供をだいて目下テレビ観賞中。旦那様は台所で何やら料理をしている模様。私は……と切り出すと奥様が急に立上り、子供を亭主の方へあずけて丁寧な御挨拶である。

アメリカ開拓当時御婦人が少なかつたこと、また、か弱い婦女子をいたわるのは紳士の条件という習慣からか婦女子を殊のほか大切にす。男性は御婦人の前ではポーシをとるのが礼である。しかし当の御婦人達はいろいろな帽子をかぶつているが紳士の前にもちろん、部屋に入つても一向にとろうとしないで盛んにシャベリまくる。御亭主は彼女達のおシャベリが終るまで静かに待つている。

御婦人達のお話しがようやく終り帰りがけるとその家の主人が急いでドアの方へ走り出る。ドアをあけてまず御

婦人を送り、ついでその亭主と、男性はいつも御婦人の下僕の如くふるまわねばならない。車に乗る時はタクシーの運転手よろしく、ドアをあけて婦人を坐席につけ、ドアをしめ安全を確かめてから向う側に廻り運転席につく。降りる時はその反対の順序である。御婦人は車の乗降、ドアの出入りと男性の立廻りを人形の如くダメツテ待つている。人前ではとくにそうしななければならない。だから男性は忙しいことこの上なしである。私のつき合つた家庭は大部分大学関係者であり、教授、助教授クラス、及び結婚して二、七年の大学院学生であるからここでいう夫婦、家庭生活もその範囲での話である。亭主が忙しい仕事や、勉強から開放されてアパートに帰ると、奥さんはまつていましてばかりに主人に子供をあずけて夕飯の仕度にかかる。こゝは日本の家庭と同様であるが、食後の皿洗いは御主人の受持ちである。センタクものがあれば亭主がセンタクの役を引受ける。もつとも洗いか乾燥まで自動式であるから格別苦勞はないのだが……。ゴミ捨て、芝生の刈取り、手入れと土曜、日曜でも御亭主の仕事は絶えるときがない。奥さんが独りで出かける時は車を出し、エンジンをかけ、向きをかえて奥様のおいでを待つという寸法である。一事が万事、女性優先優遇の鉄則で貫かれている。最初は女は弱き者、助けてやらねばならないものと考えられれ宗教道徳

の影響もあつて發達したであろうこうした礼義、道德であろうが、今は女性が男性の前に君臨し、男性を酷使する。そのため半ば恐妻がかつた亭主も見受けられる。アメリカの若い男性（結婚後四―五年）は機会がある度にこうした女尊男卑の習慣を取上げ女性の横暴どときめつける。

日本に帰る日が近づいたある日両隣の三組の夫婦を私のアパートに招きお別れパーティを開いた。常日頃テレビや新聞でみる日本の風物に興味をもっている人達で、中には朝鮮動乱時三ヶ月ほど日本に滞在した人もあつた。日本からもつていつたカライスライドで名所、旧跡、風俗、衣食住など一通り紹介した。

大低の御婦人はタバコ、ビールをたしなむ。煙草のケムリが部屋一杯にたちこめ、ビールの酔がまわるにつれ話はずみ、座が賑つていつた。日本の景色の美しいこと、日本料理のつくり方、着物など、そして話は世界的に定評のある日本婦人の貞淑さに及んだ。あなたは滞米中何回位皿洗い、セントク、ゴミ捨てなどで奥さんの手伝いをやりましたか？察するところ余り手伝いをしていなかつたようだが……と私に攻撃の矢を向けて来た。男性側は私に日本女性の内助の功なるものの実態や、三ツ指をつけて夫を送り迎えし、子供と夫のために身を粉にして働らく日本女性の姿を説明させたいらしい。ついで自分達の妻の前で

アメリカ女性の横暴を責めようという作戦である。私は戦後日本の事情も変り、女とナイロンの靴下は強くなつたといわれアメリカ同様恐妻家も多くなつたと話した。居並ぶ御婦人連形勢不利とみたか盛んに反問して来る。男性側やや有利に展開、得意になつている亭主を見た奥さん達はめいめいの亭主に向つて、ゲンコツを振りあげて、家に帰つたらみていなさいよ、このままタダではすまさないから……と、とうとう怒りだして終つた。すると亭主達は心得たもので、首をちぢめ腰をかがめて、それだけはカンベンしてくれ、と平謝り、多少の茶目気も手伝つて爆笑、哄笑のうちにパーティを終つた。アメリカにおける女房カンパク制度(?)は当分続くことであろうし亭主族のこうしたウツプンは僅かに新聞雑誌の漫画などで晴らされている。

金 曜 日 の 晩

夜おそく図書館からの帰り路、疲れた頭をやすめようとよく湖畔のドライブコースを通つた。するとヘッドライトに照らされて林の中にみえ隠れする自動車が無数にある。デイトである。これは気の毒なことをしたと思ひライトを暗くして急いで通りすぎる。あとで考えてみたら金曜日晩が一番多く見られる。妻子のある大学院学生はひたすら勉強に励み、成績を競うが、アンダーグラジャエート(四年

過程の大学生」となると趣は全く違ふ。彼等は男女共学のよさを充分に生かし、週末のパーティ、ドライブ、デートと絶えず異性と接触し、学問を論じ、人生を語り、異性を理解する。彼等にとつて週末は社交の時間であり、音楽を聞き、スポーツを楽しみ、恋を語りつつ学生生活をエンジョイするのである。新築の男女寄宿舎が隣り合せているのを見て、ある教授は、彼等は大へん恵まれた環境にある。

キットいい恋人を射止めるに違いないと笑いながら話してくれた。上級学年になると大抵の学生は妻や恋人の写真を財布に入れいつも胸に抱いている。自分の机の前に飾つてあるものもあれば、機会ある毎に学友に公表し、紹介し合つて交際をつゞける。こういう親密な交際が続いてもお互い一線を画しているせいか、或は他人の恋には邪魔しないという習慣がそうさせるのかトラブルは殆んど起らない。首府ワシントン市内での話であるが金髪の美しい娘を持つた両親が、うちの娘は箱入りで育てたせいかな男友達が少なくて困つている。金曜日の晩デートする男友達もなく娘の部屋に電灯がともつていると親として恥かしいし、先が心配だから、誰かいい友達を世話して欲しい」ということであつた。

話は先に戻るが、日本における媒妁見合結婚がどうしても彼等に理解できなかつた。

日本の女性が相手の男性とろくに交際もせず、性格も解らず、親や他人の話を鵜呑みにしてお嫁に行く心境はどうしても解らないというのである。最近職場結婚や恋愛結婚が多くなり、以前のような見合いだけの結婚は少なくなりつつあると話したが金曜日の晩を苦にする親達には到底納得のゆかぬことであつた。

キス・マーク

欧米人はやたらにキスをする。朝夫が勤めに出かける時帰つた時、寝る前、と一日の生活がキスで始まり、キスで終るといつてもよいようである。子供のときからそういう習慣であるから口腔周囲の感覚神経が特に発達しているように見受けられる。幼稚園位の子供達が芝生の上で遊び回り、シャベルをギター代りに伴奏よろしく時折りダンスを始める。終つて型通りのキス場面を展開する事もあるが窓越しにみていた母親が飛出して来て、まだ早過ぎる……と怒鳴りながら男子供の尻をいやというほど叩いている光景をみた。キスといえば、彼等はヒゲのノビ加減、口臭、歯磨きなどに神経質なほど気を使う。朝起きてヒゲをそり齒を磨き、食事のあとはガムを噛み、夕方出かけるときまたヒゲをそり、齒を磨く。折角射止めた恋人も、口臭とヒゲでアツサリサヨナラされるとあらば気を使うのももつともであらう。

デジョーリア州にいるとき、一週間ほど一人で旅行したことがあつた。帰つて来たら家内が家の前で子供達が遊んでいるのを見守つていた。♪今帰つたぞ……♪とそのまゝ部屋に入ろうとすると、家主のおばあさんが、折角元気で帰つて来たのに、何故あなた方はキスをしないのか……♪と詰問する。私は当惑して答えずに困つてると、キスもせず大事にしないと他の人に奥さんをとられて終いますよ……♪本当に……♪と真面目に注意して呉れた。

ある時友人から夕食に招かれた。食後彼等の結婚衣装しよや記念写真をみせながら彼は、この新郎のキスマークをみて呉れ……♪いかにボクが女性にもてたかが判るだろう♪とホラを吹いた。結婚式で新郎、新婦の熱いキスが終ると前に親交のあつた女友達が一人一人新郎に祝福のキスを与えるのがシキタリになつていたので、新郎の顔はあちこちにキスマークがつくというのである。

式が終つて、教会を出るとき子宝をたくさん恵まれるようにと白米を新婦の頭からまき散らすという習慣があるとか。一粒から何百粒も稔つてくれるようにとの願いであらうか……♪興味深いことである。(つづく)



佐藤さんを憶う

石橋 秀

(群馬県地方審査委員)

旧臘十一日ひるごろ支部の係のものから本部理事の佐藤さんが急逝されたとの連絡を受けました。まさか本当とは信じられないままに念のため電文を見せて貰つたほどでした。私ども和牛人を除いてはあまり佐藤さんのことを知っていない人は少ないと思いますが和牛人にとつてはかけがえのない惜しい人を亡くしてしまいました。本当に残念でなりません。とりわけ私の県では私が一番よく存じ上げて居りましたので哀惜の念一入深いものがあります。電報の知らせを上司にお話してとりあえず弔意電報をもつて御冥福をお祈りした次第であります。昔から生者必滅会者定離のほかなない世の中とは申しながらこんな早くこの日が来てしまふとは思ひもよらないことでした。上司の方も力を落して我がことのように「だんだん自分の番が近づいて来たなあ」などと亡き佐藤さんをしのんでおりました。平均寿命は七十才になろうと云ふ現在、まだまだ今後に御期待を申し上げることの大きかつた人だけにその死は惜しみても余りあるものがあります。

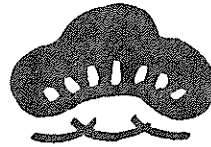
この年の秋十月、まだ発足して間もない本県で、東日本ブロック褐毛和牛研究会が、伊勢崎市及び伊香保温泉で開催されました折に御出席下さいまして、あか牛の研究をしたり、私達のためにいろいろと御親切な指導をしていただきてからまだ五十日しか経過しておりません。あのときはいつもおあいする時と変つた様子など少しも見受けられませんでしたのに、いつものように大きな眼鏡越しにやさしい慈父のような眼差しでときどき小さくたくわえた口髭をふくらませてニコ／＼とお話をしておられました。伊勢崎市にはこの時が二回目でした。最初は三十四年五月県支部の設立総会のときでした。佐藤さんと伊勢崎市はあか牛登録事業を通じて切つても切れない関係があつたわけです。とりわけ印象に残つておりますのは、この地の名産絹織物伊勢崎銘仙をこよなく愛されて、いつもお帰えりには御買求めになつて行かれたことです。

そもそも佐藤さんに初めておめにかかつたのは三十三年の夏でした。それ以来毎年二回定期便のように熊本県と群馬県で仕事のことでおあいしておりました。私の方で出掛けてゆくのは、いつも真夏の太陽のもと、はるばる九州路へ種雄牛購買の用務を帯びて行くときです。このところ人吉市の球磨畜産農協の市場で、各県の購買者とともに、合同購買を行なうことが例になりましたが、購買も回を重ね

るに従い、優良牛がたくさん作られて、各県の要望に
てくれるようになり後進県のあか牛の改良の原動力にな
ております。私も購買者が遠路はるばる出掛けてゆく
しみの一つは、球磨川の急流のほとりで、いつも暖かく迎
えて下さる佐藤さんにおあいできることでした。

むづかしい種雄牛選定も、何かしら佐藤さんに御相談し
たら少しも心配することはないと思うようになっていまし
た。

あか牛についていろいろと教えて戴いたその佐藤さんは
もう永久にお逢いすることができない人となつてしまつた
ので、今年の種雄牛購買に出掛けてゆくことが何んとなく
張り合いが失なわれたようになってしまいました。今年
もまた是が非でも佐藤さんの在りし日の面影をしのび、靈
をおなぐさめに参りたいと念願致しております。なお今年
は登録協会の設立十周年記念に当り多彩な行事が計画され
ておりますとき、設立当時より献身的な御尽力をされた佐
藤さんのおられないことは、協会にとりまして、和牛人
にとりまして、大きな損失であると思ひます。立派なご
計画を組まれてその結果を見ることなくお亡くなりになり
ましたことはかえすがえすも残念に存じますが、いつまで
もあか牛の発展のために御加護あらんことを祈つて止みま
せん。



ニユーース

○ 家畜改良増殖法の一部を改正

第三十九臨時国会で、家畜改良増殖法の一部を改正する法律案が議決成立した。

改正の要点は次のとおりである。

- 1、農林大臣は、政令で定めるところにより、牛、馬、めん羊、山羊、豚及び政令で定めるその他の家畜につき、その種類ごとに、その改良増殖に関する目標を定め、これを公表しなければならないものとしたこと。
 - 2、農林大臣が、家畜の改良増殖目標を定めるに当つては二十名以内の学識経験者で組織する家畜改良増殖審議会の意見をきかなければならないものとしたこと。
 - 3、家畜登録事業は、今後の家畜の改良増殖の方向によく適合し、公正に運営される必要があるもので、必要な規制を行なうこととしたこと。
- すなわち、家畜登録機関の登録規程は、農林大臣の承認を要することとし、登録規程が国の定めた家畜改良増殖目標に即したものであり、かつ、公正に家畜登録事業を運営するに充分なものであることをその承認

の要件としたこと。

また、これに加え、家畜登録機関に対する国の助言、指導その他必要な援助及び農林大臣の監督に関する規定を設けることとしたこと。

- 4、家畜人工授精用凍結精液の実用化に伴い、種畜及び家畜人工授精に関する規定を整備したこと。

○ 貿易自由化の繰り上げ決まる

九月六日のIMFの理事会で、わが国に対する八条国移行の勧告は一年延期にきまつたが、その代償として貿易自由化計画の繰り上げが本決まりとなり、自由化問題が再びしかも大きくクローズアップされるに至つた。

この結果、自由化率は、三十六年十月に六八%、同年十二月七〇%、三十七年四月七四%、同年十月に九〇%になる予定である。

畜産物についてみると、二百二十八品目のうち、その六四%が三十六年十月現在で自由化されることになり、三十七年十月までにはさらに活牛、活緬山羊、飼料用とうりやん、鳥卵とその製品、天然はちみつなどが追加自由化されることになる。

刊行物実費頒布案内

○褐毛和種登録簿

第一卷 五〇〇円

第二卷 八〇〇円

第三卷 一、〇〇〇円

第四卷 一、〇〇〇円

第五卷 (三月末刊行)

○褐毛和種の正常發育曲線

種雄牛 二〇〇円

めす牛(改正準備中)

代金前納申し込みのこと

申 込 先 熊本市行幸町一九 熊本県庁内

○機関誌あか牛

創 刊 号 売 切 れ

第 二 号 //

第 三 号 //

第 四 号 一 部

第 五 号 一〇〇円

第 六 号

第 七 号 (送料とも)



社団法人 日本褐毛和牛登録協会

振 替 熊本一、五一〇

第 9 号 昭和 37 年 1 月 15 日 印刷
昭和 37 年 1 月 30 日 発行

編集兼
発行者
発行所

桑原重良
日本褐毛和牛登録協会
熊本市行幸町19 熊本県庁内
振替熊本 1510

印刷者 白石 豊
印刷所 熊本市島崎町宮内290
白石印刷出版株式会社
TEL ②6812